

平和を守るために

旭中学校 3年 浦上 比呂

現在の世界では、今もなお各地で戦争や武力紛争が続いている。第二次世界大戦が終結して八十年以上が経過した現在も、多くの人々が争いによって命を落とし、故郷や日常を奪われている。科学技術が発展し、国際社会の繋がりが深まった現代においても、世界から戦争がなくなることはない。私は、戦争は決して繰り返してはならないものであり、その悲惨さを忘れてはならないと考える。

私のような中学生にとって、太平洋戦争は教科書の中の出来事であり、遠い過去のように感じられる。今では戦争を知らない世代が大半となり、当時の様子を実感することは簡単ではない。しかし、私たちは戦争を実際に経験した方々から直接話を聞くことのできる最後の世代でもある。

私は中学一年生の時、中学校で被爆者の体験談を聞く機会があった。その話の中で印象に残ったのは、原子爆弾によって、それまで当たり前だった日常が一瞬で失われたということだった。家族や友人、住んでいた町を失い、けがや病気に苦しみ続けた人も少なくない。

戦争が終わった後も、被爆による後遺症や不安を抱えながら生きてきた人々

がいることを知った。

私は、教科書の文章や写真だけでは、戦争の本当の恐ろしさを理解することはできないと思う。実際に戦争を経験した人の言葉には文字だけでは伝わらない重みがある。だからこそ、私たちは戦争の悲惨さや平和の尊さを学び、その記憶を次世代へ語り継いでいかなければならない。

歴史を振り返ると、戦争を単純に「正義」と「悪」だけで語ることはできない。戦争の背景には、人間の欲望や恐怖、憎しみなど、さまざまな要因が存在しているからである。

世界のどこかでは今この瞬間も戦争や内戦、テロが続き、多くの人々が苦しんでいる。平和とは、ただ与えられるものではなく、守り続けていかなければならないものである。

私は、日本だけでは世界中の戦争を止めることは現実的には難しいと考える。しかし、日本が世界の平和に貢献するためにできることはある。それは、経済や科学技術、外交を更に発展させ、国際社会から信頼される国になることである。また、平和への取り組みは、国だけが行うものではない。私たちが暮らす尾張旭市でも平和首長会議への加盟や「非核平和都市宣言」などの活動が続けられている。こうした活動は、戦争の記憶を風化させず、平和の大切さを次世代へ伝える取り組みである。

私たちには、体験者の思いや歴史の教訓を受け継ぎ、平和な社会を築く責任がある。過去から学び、その記憶を未来へ語り継いでいくことこそが、私たちにできる平和への貢献であると私は考える。